



今年もよろしく申し上げます

校長 松永幸二

新年明けましておめでとうございます。今年も宮川小の子どもたち、そして、宮川小の職員をよろしく申し上げます。

一年のスタートは、なんとなく気持ちが張り詰め、新鮮な思いをもつことができます。皆さんの今年の抱負は何でしょうか。一番に思うのは、やはり家族の健康ですね。今年一年が皆様方にとりまして、良い一年になりますことを心からお祈りいたします。

日本漢字能力検定協会が発表した2018年の「今年の漢字」は「災」でした。豪雨や台風、地震などによる災害が多く発生しました。犠牲になられた方も多くいらっしゃいました。地震では、大阪の小学生が倒れてきたブロック塀の犠牲となり、尊い命が奪われてしまいました。いろんな災いがあった一年でした。

一方で、京都大学特別教授本庶佑さんのノーベル医学生理学賞受賞やテニスの大坂なおみ選手の日本人初となるグランドスラム優勝、サッカーW杯での日本選手の活躍など、明るい話題もありました。2019年は、数多くの明るい話題が続くことを祈りたいものです。

さて、宮川小の子どもたちは、交通事故や重大な事故などに遭うこともなく、全員無事に一年を過ごすことができました。また、PTAや地域の方々の御協力や御支援のもと、貴重な体験の場も提供していただきました。地域の皆さんがそれぞれのお立場で子どもたちを見守ってくださっていることに、学校としましても深く感謝しています。

ただいま

1年生の作品

おかあさんが しごとにいっているから
学校からかえって「ただいま」といっても / だれもこたえてくれない
でも わたしのこころの中に / おかあさんがいるから / へんじをしてくれる
「一年一組 せんせいあのね」 鹿島和夫編より

子どもを思う気持ちが子どもに伝わり、心の中の存在になることができるのでしょうか。信頼できる誰かが心の中にいてくれる子どもは、安心して生活ができます。また、くじけそうになっても立ち直ることができます。私たちは、そんな子どもの心の中にいる存在になりたいものです。

毎朝、通学路で子どもたちの安全を見守ってくださるスクールガードの方々、横断歩道に立ってくださる通学保護員の方、登下校途中や休日などに子どもたちにあいさつや言葉をかけてくださるの方々など、子どもたちを取り巻く多くの方々が、きっと子どもたちの心の中の存在になっているのだと思っています。2019年も地域の中で育ち・育てられる子どもたちをどうかよろしく申し上げます。